

LGBTQ+/SOGIE施策の取組状況について

1 明石市パートナーシップ・ファミリーシップ制度

SOGIE（性的指向、性自認、性表現の総称）を問わず、互いを人生のパートナーや家族、大切な人として尊重し、継続的に協力し合う関係にあることの届出があったことを証明するパートナーシップ・ファミリーシップ制度を令和3年1月8日に施行しました。

(1) 届出様式の選択制

二者の関係を届け出る様式については、多様なニーズに寄り添えるよう、効力は同じであるものの名称は異なる6種類*の様式を用意しました。

※様式の名称 ①パートナーシップ届／②ファミリーシップ届／③結婚届／④家族届／⑤事実婚届／⑥〇〇届（自由記載）

(2) 届出の状況

2月末時点で10件の届出を受理し、届出受理証明書を交付しました。

(3) 医療機関との連携協定

パートナーシップ・ファミリーシップ制度の検討においては、市内3医療機関*と、意見交換を重ねながら進めてきました。

そこで、制度の施行後も市との連携を深め、SOGIEやLGBTQ+に関する理解や取組を進め合い、誰もが安心して医療機関を利用できる環境づくりを目指して、連携協定を3医療機関と締結しました。

※協定締結先：①明石市立市民病院 ②明石医療センター ③ふくやま病院

(4) 市職員の休暇・福利厚生制度への適用

婚姻関係等に基づき利用できる休暇制度や互助会の結婚祝金について、同性パートナーを有する職員が利用できるよう、対象を拡大します。

(対象となる休暇) ※2021年4月1日から適用開始

結婚休暇、忌引休暇、短期介護休暇、介護休暇、介護時間、出産補助休暇、育児参加休暇

(互助会の結婚祝金) ※2021年4月1日から受付開始

すでに本市のパートナーシップ・ファミリーシップ制度や他市の同様の制度を利用していても、遡及して給付（婚姻関係と同様に1回限り）

2 性別記載欄の見直し

市が受領・発行する申請書、アンケート、通知書等の様式で、性別記載欄を設けているものについて、国や県等の規定で定められているものや業務上必要なものを除き、原則として性別記載欄を削除しました。

様式種別	件数	廃止可能							廃止不可					
		総数	削除済	4月 切換	例規 改正	在庫 利用	システム 改修	関係機関 と要協議	総数	統計上 必要	医療上 必要	性別配慮 が必要	その他	
国・県等の様式	240	0								240				
市の様式	373	225	174	12	5	20	10	4	148	36	33	52	27	

3 啓発の取組

パートナーシップ・ファミリーシップ制度施行を契機として、市と市民、関係団体、事業者が共に、継続してこのテーマへの取組を進める機運を高めるために「LGBTQ+フレンドリープロジェクト」を始動しました。

(1) キックオフイベント

1月9日に、約150名が参加する「キックオフイベント」を市民広場において開催しました。

イベント内容

- 基調講演 ブルボンヌ氏（女装パフォーマー・ライター）
 - ・性のカタチは人それぞれ。皆が身近なテーマと考えることが大切。
 - ・自分のカタチを受け入れ、自分自身を好きになること、互いのカタチを認め合うことで、暮らしやすい社会になっていくのでは。
- クロストーク（関西で活動される4人のLGBTQ+当事者の方々）
 - ・行政だけでなく地域や企業等が連携し、取組を広めることが必要。
 - ・必ず近くに味方となってくれる人がいる。まずは相談を。
- にじいろ宣言（参加者みんなでメッセージを表明）
 - ・人はみんな、一人ひとりが違う存在。
 - ・SOGIEに関する理解を広め、差別や偏見をなくすことが必要。
 - ・LGBTQ+を含む誰もが安心して暮らすことができ、誰もが自分自身を大切にし、自分らしく生き、互いを認め合える「ありのままがあたりまえのまち」をみんな一緒に目指していく。



(2) にじいろキャンペーン

1月8日から2月末までの2か月間をキャンペーン期間と位置付け、性の多様性のシンボルカラーである6色レインボーでまちなかを装飾するほか、パネル展示や、連携企画、スタンプラリーなどを民間事業者等とも連携しながら実施しました。



4 研修の実施

研修用動画を作成し、医療機関への配付・市職員・教職員研修に活用するほか、市内の各学校、地域活動団体等に研修や出前講座を行っています。

今年度実施した研修

- (1) 市職員研修
 - ・入庁3年目職員へのアンケート・意見交換（8月）
 - ・新規採用職員研修（2月）
- (2) 学校教職員向け研修
 - ・全小・中・特別支援学校の人権教育担当教員研修（11月）
 - ・教職員初任者研修（1月）
 - ・教職員研修（朝霧中（11月）、明石商業高（12月））
 - ・小・中学校教職員人権研修会（1月）
- (3) 児童・生徒向け出前講座（12月～3月）
 - 二見西小学校（4年生）、魚住小学校（2年生）、大久保小学校（6年生）、王子小学校（6年生）、谷八木小学校（6年生）、明石商業高校（1・2年生）
- (4) 医療機関
 - 希望のあった5つの医療機関に研修用DVDを配付
- (5) その他
 - 人権教育推進員（10月）、図書館スタッフ（11月）、地域活動団体（12・2月）、民間事業者（3月に2社で実施予定）など

5 相談支援

今年度の7月に開設した専門相談窓口「明石にじいろ相談」には、2月末時点で93件の相談が寄せられています。

にじいろ相談への相談件数（2月末時点）

	電話	面接	メール	計
7月	7	3	1	11
8月	12	3	3	18
9月	4	2	0	6
10月	16	0	2	18
11月	5	0	0	5
12月	8	1	0	9
1月	7	1	3	11
2月	12	2	1	15
計	71	12	10	93

相談者

- ・本人（57件）
- ・本人以外（36件）

相談内容

- ・性別違和、治療について（49件）
- ・孤独感（14件）
- ・恋愛等の人間関係（13件）
- ・性的指向に関すること（8件）
- ・ひきこもり（7件）など

6 今後の取組

これまでの取組を基盤とし、今後も官民連携のもと更なる充実を図ります。とりわけ、相談支援については、人知れずに一人で悩まれている方を相談窓口につなぐために、より一層の周知を図るとともに、研修・啓発の取組を更に進め、市民、医療・教育関係者・事業者等の理解を広げます。

まち全体にSOGIEに関する理解を広め、LGBTQ+も安心して暮らすことができる「ありのままがあたりまえのまち」を目指した施策を進めます。